

第265回  
株式会社テレビ新潟放送網  
放送番組審議会

- 1 開催日時 平成22年2月22日（月）午前11時より
- 2 開催場所 テレビ新潟 会議室
- 3 委員総数 9人 出席委員8人

出席委員

豊口 協 委員長	大矢 純一 副委員長
井伊 基之 委員	三島 勇 委員
碓井 真史 委員	大久保 千春 委員
田村 明子 委員	尾畑 留美子 委員

会社側出席者

代表取締役社長	前川 磐
常務取締役（放送統括）	奥野 富士郎
編成局長 兼 放送番組審議会事務局長	駒形 正明
報道制作局長	竹石 尚史
報道制作局次長 兼 報道制作部長	稲田 裕之
編成部長 兼 考査室長 兼 視聴者相談室長	中川 保彦
合評番組プロデューサー	小木 裕介

事務局 紫竹 聡子 水野 明子 隅田 至一

## 4 議 題

### 1) 番組合評

『元気一番“生”テレビ』〔放送：10年1月23日（土）10:30～11:25〕

（説明：番組プロデューサー 小木 裕介）

### 2) 会社報告

① 1月の視聴者の意見。 （報告：視聴者相談室長 中川 保彦）

② 講じた措置、公表など定例の報告等。 （報告：事務局）

③ 259回審議会（昨年6月）議題

「大河は誰のもの…信濃川不正取水の果てに」 NNN年間賞 受賞

（報告：報道制作局長 竹石 尚史）

### 3) その他

## 5 審議の概要（委員の意見）

最初に会社側から、この番組は生放送で東北6県と新潟県の7県ネットで制作していること。番組のコンセプトはこの地域の今を、楽しく、やさしく、わかりやすく発信する地域密着の情報番組であることなどを説明した。また、毎月1回の放送で今回が106回目であり、まもなく10年の長寿番組になるが、ブロックネットで毎回生放送でこのように長い期間伝えている番組は珍しいことや、各局が持ちまわりで司会の片岡鶴太郎さんら呼んで幹事社として制作を担当していて、当社は年に2回ほど新潟から番組を発信していることを説明した。

●植物園からの中継で、地図もでていて機会があったら行きたい、見てみたいと思った。アゼリアの種の説明とか虫を食べる植物とか詳しい話があったが、映像的にも、小さな粒のなかに700ぐらいの種があると話していたが、それを割って見せるとか、その話に合うように工夫をすると視聴者はより楽しく見ることができただろう。各県の今を伝える情報番組とのことだが、福島県の蒔絵師を目指す女性など、もう少し時間をかけて掘り下げて伝えた方がよいテーマがいくつかあった感じがする。全体的に楽しく1時間視聴したのだが、出演者の方々が慣れてきてしまって、内輪で盛り上がっている様子が見えた。視聴者の視線を気にした方がよいシーンがいくつかあった。またネタが足りない部分を無理してつないでいるなど感じる部分もあった。番組は土曜日の午前に視聴するにはシックリくる内容だと思う。

●植物園からの中継で、雪景色のなかのアザレアが綺麗で番組の始まり方はよかった。熱帯植物のシーンでは具体的なことを知りたかったが「アーすごいですね」と言って次へ行ってしまう感じで、説明が薄いと言うか、コメントが噛み合わないと言うか、出演者は興味をもって聞くなど、生番組らしく展開してくれると視聴者も納得する面白みがでるのではないか。県外の話題では秋田の「しょつつる」。3年も漬け込むことは知らなくて興味深かったし、作り方を手際よく教えてくれていた。青森の85歳と87歳の方が作る職人技のバッグ、素晴らしい技術だ。手に入りにくいのだろうが値段を教えて欲しかった。会津漆器の蒔絵師を目指す女性、後継者育成のための昔ながらの師弟関係の描き方は、大切に育てていきたいとの思いが伝わって

きて、このコーナーはよい。しかしながらケールやハンバーガーの話題は、健康に良いとか、ジューシーとか、肉汁がでるとかの表現だけで、全体的にコメントが薄い感じがした

●情報が盛りだくさんで内容は楽しいのだが、アナウンサーで気づいたことがある。各局のアナウンサーはいずれも垢抜けして洗練されていて美しいのだが、何か都会のアナウンサーと同じみたいで地元の親しみやすさがでていない感じがした。地元の雰囲気が出ているともっと味のあるアナウンサーになるのかなーと思った。どこの局もアナウンサーの感じは同じだった。

●番組を視聴して、伝えるのは人だをつくづく思った。出演者たちの熱であるとか、伝えたい気持ち・想いがあればあるほど視聴者は引き込まれる。見たい番組ではなくても、何か居心地が良くて見てしまうことがある。生番組は難しい。特にこの番組では地元の素人さんを相手にして、キチンと伝えなければならぬ。これを考えると本番前の打合せで勝負が決まっているのかなとも思う。出演者とスタッフが素人さんを元気に盛り上げてくれているかで、素人さんの“ガチガチ度”が変わってくるのではないか。先日、NHKの朝の番組で津南町の雪まつりのレポートを放送していたが、リポーターの女性はいつも元気で、素人さんを盛り上げて、津南の元気を全国に伝えてくれていてよかった。本番が始まる前に、現場を温かくし盛り上げてくれる人が本番でも素人の良さを引き出してくれると思った。

●片岡鶴太郎さんは元気なのかな？と心配になった。お笑いもできる人で、俳優で、絵を描く芸術家でもあるが、この番組でのキャラ、役割がわからない。元気がないのか、それとめ抑え目にして各局のアナウンサーを盛り立ててつないでいく役割に

徹しようとしているのか。内山信二くんは可愛いキャラだが相手の話を聴いた方がいい。自分は時間通りにこなすのが仕事だと勘違いしているのではないか。旅人なのにスルー、スルーで行ってしまっている。視聴者目線で、もっとビックリしたり感動したりしてよ！と思った。

●ローカル番組で各県、各地を生中継でつなぐ番組が10年も続いていることは素晴らしいことだ。東北電力の管轄ということで東北6県と新潟県の番組なのだろうが、私にとっては関東甲信越の括りよりもシックリくる。東北各地の話題の方が、見てみたい、行ってみたい気持ちになる。片岡鶴太郎さんについて以前も審議会で申し上げたが、片岡さんの良いところは食材や工芸品などの対象となるものへの関心や興味が嘘っぽくないところだ。また、とぼけた感じは半分芸術家になった今も残っている。この良さをだすために番組の進行や仕切りをさせないで、もっと自由にやらせてあげたらと思う。内山くんはTシャツ姿で温室に立っているだけで楽しい雰囲気を出している。

他県の中継が人が集まるイベントで、新潟が植物園や資料館と言う静かな雰囲気であったためか盛り上がりには欠けた感じがあった。東北電力の1社提供ということでロングバージョンのCMが放送されていたが、楽しくCMも見た。

●何を目的にした番組なのか、考えながら視聴していたが最後までわからなかった。生活情報なのか、紀行なのか、バラエティーなのか、いったいどのようなジャンルの番組なのだろうか。新潟からの内容は好きだった。地元を知る参考になった。植物園の熱帯植物ドームは興味がある施設だ。新潟がアザレアの最大栽培産地であることも初めて知ったし、栽培している人たち

が楽しい人たちで話しに引き込まれた。日本のツツジがヨーロッパに渡って、改良されて日本に戻ってきたという話しも有益だった。秋葉区は鉄道の街、石油の街、花の街、であることをコンパクトにとりあげていた。鉄道資料館はぜひ行ってみたい。番組の性格上、仕方ないと思いつつも3つ気になった点がある。一つは、細かな情報が断片的に入っていることで、せっかくの新潟の情報が記憶に残る感じが薄くなってしまった。二つ目はその小情報がほとんど食べ物ばかりで、食べ物番組と勘違いされてしまうのではないか。三つ目は、登場人物の会話があまりにも短すぎて何のために話しを聞いているのか疑問に思ったことだ。

● 土曜の午前中に朝食も終わって一息ついている時間帯に各地の話題が次々と展開される。片岡鶴太郎という知名度が高く、視聴者目線の司会者を使って、しかもメイン会場から東北の放送局をリレーして制作するこの企画は、視聴者のいろいろな好奇心をあおって素晴らしい企画だと思う。出しものはバラバラになるが、司会者が親指をたてながら「一番」というキーワードを示して各地で一押しの出しものを紹介していく、ゆるい統一感の流れがある展開になっている。食べ物ネタが多くなるが素材の由来の簡単な説明とか、実際に作る過程を見せるとか、試食して感想を述べるとか、視聴者にとってもお茶の間にながら学習と疑似体験ができる作りになっている。寒鱈汁の試食をしていたら肝心の「白子」が入っていないくて、アナウンサーがオタオタするのも生放送の魅力だ。どの椀にも「白子」が入っていることを伝えるため、もう1回、最後に試食を見せたが、山形県代表として山形放送の意地が伝わってきて、見る側もと

でもおもしろく、そのおかげで私は「白子」が番組で一番印象に残った。これは偶然の展開であって、仕込まれた企画ではないことを期待したい。

● 各局リレーは1県に1品の構成になっていて、シンプルで印象に残りやすいと思ったが、幹事局の新潟が食べ物ではなくて西洋ツツジのアザレアをメインにもってきたのが私には目から鱗、良い選択だと思った。それで植物園から中継している。温室は付け足しで、アザレアを見せたくてこの場所を選んだと勝手に解釈した。日本のツツジがヨーロッパで改良されて日本に戻り新潟を中心に栽培していることは、多くの県民は知らないだろう。そこにうまく焦点をあてて、コメ、酒、魚ではないものを幹事局としてだしてきたところに番組の懐の深さを感じた。視聴者に飽きられないよう出しものを選びすぐることで番組は続いていくと思うので、方向性は今のままで進めていって欲しい。

● 植物園の紹介では、初めて見る珍しいものが多かったが。視聴者はそのような物にこそ興味を持つので、もう少しジックリと説明する時間をとって欲しかった。花は本来、美しいものでアザレアも美しいのだが、私の家のテレビでは美しく感じなかった。映像的に美しく見せる工夫があってもよかったのではないか。水中庭園での植物やメダカ、タナゴなどの魚について、説明された人が、ひとこと環境汚染で減りつつあることを言って終わってしまったが、環境問題は今、重要であり番組でも時間をとって環境保護を訴えて欲しかった。片岡鶴太郎さんが新潟で紹介した番組だが、片岡さんと花の話題はマッチしていない感じがした。青森のバッグ、福島の手塗り漆器は手作りの良さや伝

統を継承する大切さをもっと紹介して欲しいと思った。全体としては安心して見られる番組だ。東北電力1社だけの番組でありCMも良く出来ていて見ていて飽きなかった。

● 番組は清々しい。説明がしつこくないし、わざとらしくなく自然な感じだ。対応している地元の人たちも、素人らしく自分の気持ちを素直に話されていて安心して見ることができた。民放の番組としては品がある。メイン会場の県立植物園は、日本の中でも内容がある植物園と聞いている。県や新潟市はもっとピーアールすべきではないか。福島の蒔絵師の話だが伝統工芸を番組でピーアールしてくれたことは非常にいいことだし嬉しい。東北はこのような伝統工芸がたくさんある。この「元気一番“生”テレビ」という番組は今後も続けて行って欲しい。また、この番組は首都圏など都会で放送されると非常に大きい反響があると思う。放送できないものか。

## 6 会社側の報告

### 1) 放送番組に関して申し出のあった意見の概要

1月……121件。

### 2) 訂正放送、取り消し放送の実施状況

前回審議会(10年1月25日)から昨日(10年2月21日)まで、総務省に届け出た訂正放送、取消し放送はありませんでした。

## 7 審議機関の答申または意見(前回審議会)に対してとった措置

1.) 前回、第264回審議会では『お嫁においでよ～新潟婚カツ物語』を審議いただきました。委員の意見は議事概要



にて記者制作スタッフ、社内に周知しました。

- 2.) 後日、完成する番組審議会議事録を全社員・スタッフに回覧します。

## 8 今回の第 265 回放送番組審議会の公表

- 1.) テレビ新潟本社、長岡支社、上越支社の県内事業所に議事概要の書面を準備しています。
- 2.) 当社のニュースで審議会の概要を放送します。
- 3.) インターネットの T e N Y ホームページに議事概要を掲載しました。

## 9 その他の報告

昨年6月14日に全国放送し、直後に審議会で審議いただいたNNNドキュメント09「大河は誰のもの…信濃川不正取水の果てに」が、この番組に参加している29局の制作者たちの投票で決められるNNN年間賞で「奨励賞」を受賞したことを報告した。この賞では前年も「命の限りムスタンに生きる」が「最優秀賞」を受賞しており、当社は2年連続の受賞になることも合わせて報告し、審議会では委員の皆さまから貴重なご意見をいただいていることに謝意を表明した。

## 10 参考事項（委員への配布資料）

- ・1月の視聴者からの意見、問合せ等の集計表
- ・「NNNドキュメント09」NNN年間賞 審査結果
- ・1月の単発番組制作一覧
- ・民間放送新聞（1/23, 2/3, 2/13号）

以上